

<主要 Q&A>

全社:

Q.2011年3月期業績予想を下方修正した理由は。

A. 2011年3月期の業績予想については、海外たばこ事業の為替中立ベースの EBITDA 見込みは 6.2%成長のまま変更せず、国内たばこ事業の EBITDA についても当初見込みを維持しています。一方、海外たばこ事業における前提為替レートの見直しに伴う為替のマイナス影響、国内たばこ事業における販売数量の下方修正および食品事業における業務用商品の売上不振等により、全社調整後税抜売上高を下方修正しました。また、主として為替前提レートの見直しに伴う為替のマイナス影響等により、全社 EBITDA を下方修正しました。

今後の市場動向を注視しつつ、ブランド[®]に対する投資を積極的に行い、必要な施策を着実に実行し、目標の達成に邁進していきます。

国内たばこ事業:

Q.10月増税に伴う定価改定前の駆け込み需要量は。

A. JT の駆け込み需要数量は、ほぼ想定内の 1.1 ヶ月分発生したと見ています。このような大きな需要の変動に対し、需給に支障をきたすことなく、適切に対応いたしました。

Q.駆け込み需要の反動減少から、通常レベルに戻るのはいくらかかるのか。

A. 2006年の増税時(1円/本、20円/箱)には、駆け込み需要が0.6ヶ月程度発生し、通常レベルに戻るまでに3ヶ月程度要しました。今回の値上は過去に例のないものであり、駆け込み需要も1.1か月分程度発生しているため、その分反動減も大きくなることが予想され、回復には前回増税時の3ヶ月程度より長い期間を要すると見えております。

Q.今年度 EBITDA 見込み 2,190 億円は達成出来るのか。

A. 上期に発生した定価改定アナウンス影響を考慮し、販売数量、売上高を下方修正しましたが、売上高減少影響を、コスト削減等により吸収すると想定し、EBITDA の当初見込みは変更しておりません。引き続き中長期的に、売上成長戦略および生産性向上の両面から、様々な施策を実施し、目標の達成に取り組んでいきます。

海外たばこ事業:

Q.7-9月期の JTI の状況は。

A. 7-9月期の総販売数量および GFB 販売数量は、対前年プラスに転じ、それぞれ 4.8%、9.4%の増加となりました。これは、フランス、イタリア、中東、トルコ等での成長モメンタムの継続、およびロシア等での総需要の減少が上期と比較して緩やかになったことによるものです。加えて、中東、トルコおよび台湾において前年7月の販売数量が低めであったことも数量成長に寄与し、高めの水準となっております。

Q.ロシアおよび UK の足元(7-9月期)の状況は。

A. ロシアにおいては、対前年でシェアが上昇していることに因り、7-9月期の販売数量は対前年 1.9%の成長でした。総需要の減少が緩やかになっていることに加え、消費者トレンドにアプトレーディングの兆しがあることに因り、Winston は好調なパフォーマンスでした。1-9月期の販売数量は対前年 4.7%の減少となりました。

UK においては、Super Value セグメントである Sterling および Roll Your Own 製品である Amber Leaf は引き続き成長しました。しかしながら、6月政府追加予算発表前の増税実施の憶測に伴う駆け込み需要の反動に伴い、7-9月期の出荷は低迷しました。その結果、販売数量は対前年 7.4%の減少となるが、1-9月期の販売数量は対前年ほぼフラットの 0.4%の減少となっております。